



どさんこ海外保健協力会・会報 2018年8月18日発行

●目次●

- ・総会報告と2018年度予算 (P2～)
- ・ネパール便り(P4～)
- ・イラク便り (P7～)
- ・今後の予定(P8)

私達はすべての人の健康と平和を願って、

- ⊕ 北海道の一般市民が中心となった活動をしていきます。
- ⊕ アジアなどの発展途上国に生活する普通の人々の自立を支援していきます。
- ⊕ 同じ地球上の他の国や地域のことを考える中から、北海道に住む私たち自身の生活を見直していきます。

村の奨学生

今回のチョウジャリ滞在では嬉しいことがありました。

久しぶりで昔の奨学生に会ったのです。プリマヤは7年前にここからバスでも2日かかる准看護学校を卒業し、運よくその近くの病院に勤めることができました。今回出産のため里帰りし、赤子を連れて産後の検診に来たのです。病院では同期の2人(3人とも同じ奨学生、同じ看護学校です。)が働いており、何年かぶりで顔が揃い会いに来てくれました。

チョウジャリに来て3年目。高校の校長から、気立ての良い子で頭もよく看護の道に進みたい生徒がいる。ただ家が貧しく学校に行かせられない。何とか応援してもらえないだろうかとの相談を受け、家内と話し合い、自分たちで始めた奨学金制度も、今までに20数人が巣立っています。2011年からは「どさんこ」としても田舎で働く意思のある看護学生などに奨学金を送っています。

これらの奨学生に対する私のほのかな願いは、村々での活躍と共に、次の時代に、自分たちが受けたと同じように、助けを必要としている若者たちに手を差し伸べてくれることです。

ネパールどさんこ駐在員、樫戸健次郎

SDGs 国連持続開発シンポジウム～身近にできることは

～どさんこ海外保健協力会総会報告～ 代表理事 大泉 樹

去る6月23日(土)に札幌のかでる2.7において、256名の会員数のうち22名の出席と121名の委任状をいただき、2017年度総会が行われました。ご出席並びに委任状を郵送いただきまして、皆さまには感謝申し上げます。

総会前の講演会は今年は「SDGs」についてのシンポジウムを行いました。「SDGs: Sustainable Development Goals」は日本語では「持続可能な開発目標」で、2015年から2030年までの国連の行動計画です。「誰一人取り残さない: No one will be left behind」をスローガンに、貧困や飢餓、健康、エネルギー、気候変動、平和的社会など17の分野で目標がかかげられ、先進国にも課題が課せられています。



シンポジウムは、ファシリテーターの大友理事により進められ、まず、NPO法人さっぽろ自由学校「遊」代表の小泉氏よりの、SDGsの説明と国やNGOがどう活動しているかというお話に続き、大泉が“どさんこ”のカンボジアやネパールや気仙沼での活動も貧困への対策などSDGsの目標に向かっていたが、自立のための

支援は、ある程度意思のある人へのお手伝いなので、誰一人とり残さないというのは本当に難しいという話をしました。そして、地元でフードバンクというボランティアをしている“どさんこ”吉田監事より、貧困への活動は身近にもあるが、ボランティアは不足しているという発表がありました。その後、グループに分かれて「身近にできることは何か」というお題でのディスカッションがあり、「近所の弱い立場の人とコミュニケーションをよくとることが大事だ」「こういうNGO活動に少しでも参加することもいい」などの意見がだされました。

総会では、樫戸健次郎ネパール駐在員よりのネパール活動報告の後、2017年度報告と決算が特に意見、質問なく承認されました。カンボジアの活動は、支援する現地NGOの活動縮小に伴い、2017年度で終了することとなりました。2018年度の活動については、カンボジア以外では、概ね前年度と同等の活動で予算が組まれています。また、樫戸駐在員より、場合によってはチョウジャリ病院に公衆衛生部門で使用する車両の支援を行いたいとの提案があり、維持管理や額について討議もされました。年度内に支援が必要になった場合は、予備費からの支出について理事会に判断を一任するというので、今年度予算についても承認されました。

尚、活動報告、決算報告は、同封の年次報告書をご覧ください。

特定非営利活動法人どさんこ海外保健協力会					
2018年度予算(2018年4月1日～2019年3月31日)					
【収入の部】			単位；円		
科目	前年度決算	予算	備考		
繰越編入金	12,717,528	11,481,072	内ネパール地震指定 6,739,397		
会費	942,000	1,000,000	会員256名		
寄付金	2,990,948	1,500,000			
雑収入	10,033	18,928	講師謝礼・受取利息		
収入合計	16,660,509	14,000,000			
【支出の部】					
科目	前年度決算	予算	備考		
国外活動費	ネパール	公衆衛生活動費	400,000	400,000	チョウジャリ病院活動費
	(公衆衛生)	現地スタッフ給与	300,000	300,000	准看護師1名
		奨学金	300,000	300,000	助産師1名
	カンボジア	CCN保健活動支援	109,900	0	
		小計	1,109,900	1,000,000	
	ネパール	旅費交通費	326,637	368,500	現地移動費等
	(地震支援)	支援物資等	662,288	989,150	教育支援、衛生教育費用等
		人件費	434,800	400,000	現地ボランティア等
		諸経費	38,494	23,000	事務費・通信費等
		小計	1,462,219	1,780,650	
	ワーカー費用	渡航費現地旅費	590,902	300,000	含駐在員、短期派遣
		人件費諸経費	1,470,226	1,700,000	給与、住居、海外保険等
		小計	2,061,128	2,000,000	
		合計	4,633,247	4,780,650	
	国内活動費	講演会費	会場機材使用料	15,680	20,000
		講師謝礼	0	10,000	
		小計	15,680	30,000	
その他活動費		会報作成費	46,256	50,000	紙代、印刷代等
		会報等送料	90,826	120,000	5回分
		研修渉外費用	5,000	5,000	ネットワーク団体年会費等
		旅費交通費	0	10,000	講演会交通費等
		資料等作成費	27,960	40,000	パンフレット、年次報告書等
		小計	170,042	225,000	
東日本震災支援		旅費諸経費	44,706	140,000	アドバイザー2回派遣
	小計	44,706	140,000		
	合計	230,428	395,000		
管理費	事務所維持費	事務所関連費	289,857	300,000	賃借料(月20,000円×12ヶ月)・光熱費
		通信運搬費	23,461	30,000	携帯電話、ホームページ
		小計	313,318	330,000	
	事務関連費	手数料等	1,936	10,000	郵便振込・銀行振込手数料
		消耗品費	508	10,000	
		備品購入整備費	0	10,000	
		小計	2,444	30,000	
	予備費	予備費	0	8,464,350	緊急費用、今後のネパール地震費用等
		小計	0	8,464,350	
		合計	315,762	8,824,350	
支出合計	5,179,437	14,000,000			

ネパール震災支援活動報告

ネパールワーカー 前田紀子

いつも心温かいご支援ありがとうございます、今年度も現地の支援活動を継続しています。

現地訪問が天候による悪路のためなどで予定の時期より遅れたりしましたが、先月6月で2017年度の全活動を無事に終えることができました。



2016年度から開始している、奨学金による被災地のこどもの生活支援活動では、来年度も38名4歳から20歳までのこどもが学校に続けて通えるよう、引き続き応援していきます。（上写真：チランカ村の奨学生のみんなどとそのご家族）

<ドラカ郡チランカ村に住む奨学生のこどもたち>

- チランカ村

当会で応援しているチランカ村のこどもたちは、全員で7名です。この地域は、他の奨学生たちの住む村の中でも遠隔地になります。村には簡易診療所しかないので、病院に行くには郡庁所在地のチャリコットまで行かなくてはなりません。また、学校は中学校まで（10年生）なので、高校は村から少し遠くなります。

奨学金を手渡すときは、いつもチャリコットとチランカ村の中間点、シンガティ村まで片道徒歩3時間かかる山道を、ご家族と一緒に歩いてきてくれます。今回は、雨の後で道が悪く徒歩4時間以上かかってしまうので、みんなでトラクターに乗り合ってきたとのことでした。

雨の時は、土砂崩れなども起きやすくなります。実際、2015年4月の地震後、5月シンガティ村から支援物資を受け取り帰るトラクターが大きな余震で地滑りに合い、

25名が亡くなっています。奨学生のクサル ビカくん（7歳）の父親もこの事故で亡くなっています。



（左上写真：チランカ村、右上：チランカ村への道）

- 奨学生の様子

これは他の郡の奨学生の子供たちもですが、2年前に初めて会った時を思うと、みんな本当に元気に頼もしく成長しています。

本人たちの努力と明るさ、親御さんご家族皆様のご苦労があつて、家族や家を失ってもみんなで震災後の生活を支え合つて来られました。またチランカ村に住む人たちは、地震以前から経済的に生活が楽ではないお家がほとんどで、再建は大変です。

7名の奨学生のうち、スジャン ブジェルくん（7歳）とスミトラちゃん（4歳）は



兄妹で、震災で父親を亡くしています。母親は頼る親戚もほとんどなく、なんとか農業で生計をたてています。初めて村で出会ったときは二人とも幼く、身なりも清潔と言

える状態ではありませんでした。（前ページ左写真はスジャンくんたちにチランカ村で初めて会った時、右写真は今年6月の交流会にて）

今では奨学金支給時の交流会で会うと、それぞれ身だしなみを整え、堂々とした表情を見せてくれます。渡した古着もよく着てくれているようです。

<地震後の状況について>

現在当会で応援しているのは、震災で親を亡くしていたり、本人や家族が障害をもったりした子供たちです。しかし、被災地では違った状況で生活が困難になっている子どもたちもいます。

5月に、奨学生のいるラスワ郡の避難キャンプを訪れた時のこと。住民の方からある相談をいただきました。小学校3年生になる女の子マヤちゃん（仮名、右写真）、父方の叔父家族と兄と暮らしています。

彼女も被災し家を失っています。両親はいませんが、地震で亡くなったわけではありません。地震前から父親はマレーシアに出稼ぎに行ったきり帰ってこず、母親は地震後彼女を置いて他の男性と家を出て行ってしまいました。

シンドゥパルチョーク郡に住む奨学生のアスミタマンちゃん（13歳）も、現在親戚と祖母と暮らしています。母親を震災で亡くしていますが、その後父親は他の女性と結婚し家を出て行ってしまいました。相手の方がアスミタちゃんと一緒に暮らしたり養育したりすることをよく思わないという理由で、父親は帰って来ず、彼女は両親がいないのと同じ状況です。奨学金を受け取るのも、いつもお祖母ちゃんと来ます。

震災で両親を亡くしたこどもへの支援をしている団体は多いようですが、支援が必要でも条件が合わず支援されていない子どもたちがいるのも現状です。

被災し生活状況が厳しくなっている子どもたちを少しでも応援できるように、当会では子どもたちそれぞれの現状を聴き、マヤちゃんも含め今後支援を検討していきます。



金沢さんのイラク便り2



JIM-net : 日本イラク医療支援ネットワークプロジェクトマネージャー どさんこ会員 金沢絵里

どさんこの皆様、イラクよりこんにちは！現在のクルド自治区アルビルは、日中の気温が40℃を超える毎日で、日差しが痛いと感じます。日本と違って、こちらは乾燥しています。この間一時帰国しましたが、日本の30℃も湿気が高いので暑く感じたので、皆さんが想像するほどイラクは暑くないと思いますが、8月に入ると気温は50℃を超えると聞いているので、今から恐ろしいです。



During shift change
handover by using
and share the high
about patients. Be
nurses get involve
about patients, so
understand health
patients by sharin
very closely in ord
treatment and nu

JIM-NET ではイラクの小児がんに対する医療支援を行っていますが、その支援先の病院であるナナカリ病院で年3回看護師に対する研修をしています。

私はプロジェクトマネージャーとして現地の病院でアセスメントを行いました。昨年まで感染予防等を中心に行わ

れていたようですが、病院の建物自体が新しくなり、設備的な部分で解決されている事もあったので、職員の意識も含めた感染予防については引き続き行い、今回は看護師の責任、そして看護記録を最初の研修のテーマにしました。

ナナカリ病院では看護記録もなく、注射を行っても看護師のサインすらありませんでした。血圧や体温、脈拍などは医師が行い、看護師は医師が指示した注射や点滴を行うだけです。私達は小児がんの子どもたちに対して支援を行う中で、頻繁に亡くなっていく場面を目の当たりにしています。看護師のレベルを上げる事が少しでも子どもたちのためになるのでは、という思いから看護師の役割や責任、看護記録の必要性を理解してもらい、実践していく必要があると思い、研修のテーマにしました。

看護師のレベルが低いと言っても、その裏には日本とは違った多くの原因があります。

まずは給料がとても低く、他の仕事を掛け持ちしながら生活している人が多いです。日中は病院、夜中1時から違う仕事をしている看護師も多いのです。また、看護師養成所は2年（夏休みの期間等が長いので実質1年）であることや、クルド語しか話せない看護師も多く、知りたいと思っても情報が制限されてしまうという事も大きな原因であると思っています。今まで知らなかった事を知る、知識を得る事も動機づけになると思うので、看護師が必要性を理解しながら無理なく行えるように始めて行きたいと思っています。

研修では皆さん熱心に耳を傾け、日本の看護師と自分たちの仕事の違いにとっても驚いていました。自分の住む地域以外を知るという事で大きな刺激になったと感想をいただきました。JIM-NETとして患者さんたちの役に立てるよう今後とも頑張っていくと共に、同時に現地の看護師に対して少しでも貢献していきたいと思っています。



9月のオープンハウスはパレスチナ！

新聞等でも度々報道されていますが、長年にわたってパレスチナへの医療支援を続けておられる医師の猫塚義夫さんが事務所に来てくれることになりました。イスラエルからの攻撃と迫害にさらされるなかで、人びとの健康はどうなっているのか。この7月にパレスチナを訪問された報告を中心にパレスチナの現状についてお話しいただきます。オープンハウスはどなたでも参加出来ますのでどうぞお気軽に参加下さい。

「今、ガザで何が起きているのか、その本質とはなにか」

北海道パレスチナ医療奉仕団 部長 猫塚義夫 医師

とき：9月22日（土）16：00～17：30

ところ：どさんこ海外保健協力会 事務所

なお15：30～16：00は世話人会になります。こちらもご自由にどうぞ。

2018ネパールスタディツアー 11月1日（木）～9日（金）

参加者 越後・真鍋 （航空券の手配をご自分できるならまだ参加歓迎）

読者の広場

会報をお読みになってのご意見やご感想をぜひお寄せください。

また、会員の方の日頃の活動やちょっとした思いなどもお伝えください。

会員みんなで会報を作っていきましょう。

投稿先：どさんこ事務所 または hopedosanko@yahoo.co.jp

[会費を納入された方、団体]

佐藤 悦子、鈴木 寿和子、宮下 浩明、井上 典子、服部 昌男、針金 佳代子、石垣 正、水野 栄子、真野 勉、原田 利江、篠本 あき、檜戸健次郎、大泉 樹、大泉 鐵、大泉 三千代、難波 芳江、保木本 仁、清水 直美、藤 孔仁子、大友 宣、山田 美樹子、西原 征治、吉田 雅子、森 美知子、山田 直芳、山田 美樹子、夏目 寿彦、夏目 尚子、井口 幸男、須藤 宏子、須藤 武、加藤 洋子、越後 早苗、伊藤 敏子、蛭川 紀巳子、星 昌枝、徳永 悦子、藤本 留美、木原 由里子、大西 美保、清水 美和子、福田 和子、熊谷 トキ、濱田 啓子、聖マカレット教会婦人会、蛭川 陽子、

[寄付を頂いた方、団体]

鈴木 寿和子、ボール復興支援チーム（市川市）、田邊 薫、小峰 良子、桜ヶ丘教会（杉並区下高井戸）、寺内 賢一、札幌聖ミカエル教会婦人部、原田 利江、浦幌町立診療所サマリヤ会、荒井 義章、小貫 純子、伊藤 敏子、

[新たに加入された方]

田畑 彩生、

（敬称略）（2018年4月3日～7月3日）

どさんこ海外保健協力会 ホームページ

URL:<http://homepage3.nifty.com/hope-dosanko/>

Facebook も「いいね！」を！



●編集後記●

今年の夏は豪雨と各地での記録的な猛暑、異常気象が続いて地球温暖化の影響と言われています。地球環境の限界（プラネタリー・バウンダリー）はSDGsの基礎になっているそうです。そして今回の火星大接近、火星探査機も打ち上げられて、将来火星への移住も考えられているようです。でもその前に地球からすべての戦いを無くして人類が全力をあげてこの青く美しい惑星を守っていききたいものです。（蛭川紀巳子）